

第1回調整会議意見まとめ

テーマ：「感染症医療の視点を踏まえた連携と役割分担の課題について」

○新型コロナ感染拡大に備え、地域医療提供体制の確保に向けた継続的な取組が必要

- ・一律の入院病床の振り分けではなく、病院の規模や機能に応じた役割分担と病床の振り分けが必要
- ・行政を中心として医師会や病院を含めた、関係者間の緊密な情報共有が必要

第2回調整会議で出された主な意見

テーマ：「新型コロナウイルス感染症に関する地域での対応について」

課題	主な意見	都における取組
①患者の受入れ先（入転院）の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・重症患者受入れ病床の逼迫 ・入院重点医療機関等での患者が重症化した場合の対応が困難 ・透析患者、認知症患者や介護施設等入居者等は受入れ先の確保が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定機能病院や救命救急センターを有する病院等へ重症病床の増床要請 ・都立・公社病院の病床数の拡充 ・新型コロナウイルス陽性患者入院調整本部による広域的な入院調整
②患者の軽快後の受入れ先（転院）の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ軽快後も転院先がなく、退院基準を満たした患者等の転院等、受入れ体制の整備が必要 ・入院が長期化し、ADLの低下によって自宅や施設に戻れない高齢患者等を病院間で連携しながら診ていくことが重要 	<ul style="list-style-type: none"> ・退院基準を満たした患者等の転院を受入れる回復支援病院の確保（財政的支援を含む） ・回復支援病院の関係機関への情報提供、東京都多職種連携ポータルサイト（転院支援情報システム）の活用
③患者受入状況の把握・情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・各病院の患者受入れ状況の把握が必要 ・Web会議の実施等により関係者間の情報共有が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都多職種連携ポータルサイトの活用 ・陽性患者の発生から入院療養情報等を一元管理するシステムの検討